

1971 (昭和 46 年) 知事選候補者の経歴と公約

19710318-19N



候補者	経歴	公約
たがや真稔 たがやしんねん 51 無新	早大法卒、日鉄二瀬鋳業所入社 炭労法対部長 福岡県議 2 期 福岡県職業安定審議会委員 衆院議員 7 期 社会党政策審議会議長 2 期 福岡県原水爆禁止協議会顧問 嘉穂郡穂波町	私はなによりも、中央のいいなりになり、県民をわすれた県政を正しくし、県民みんなで考え、みんな参加する明るい清潔な民主県政をつくります。私は 70 歳以上老人の医療無料化、零歳児からのモデル保育所、消費者運動の育成、日中貿易促進による産業振興、きびしい公害規制などを行い、これまでの地方自治を大胆にのりこえる、70 年代の躍進する県政を、県民とともに作りだします。
亀井光 かめいひかる 62 無現	東大法卒 労働省労働基準局長 中労委事務局 局長 労働省事務次官 参院議員 1 期 自民党福岡県連会長 参院石炭対策特委会理事 参院自民党国対委員 大蔵政務次官 知事 福岡市 当 1	県民の心を心とし、知事在任 4 年間の実績を生かし、さらに福岡県を明るく豊かにするために①公害と交通事故の防止②老人の無料医療制度の確立③身障者、母子家庭、低所得者などの気の毒な県民の福祉の向上④物価の安定と消費者の保護⑤農林漁業、中小企業の振興⑥産炭地の振興⑦青年、婦人の活動の助長⑧労働福祉の向上⑨教育の正常化と振興⑩産業基盤の整備による地域開発、などを行う。



1975 (昭和 50 年) 知事選候補者の経歴と公約 19750321N

候補者	経歴	公約
亀井光 かめいひかる 66 無現	東大法卒 労働省失業 保険課長 労働省労働 基準局長 中労委事務 局長 労働省労政局長 労働省事務次官 参院 議員 大蔵政務次官 九州地方知事会長 日 本教育センター理事長 福岡市中央区天神 当 2	県民のしあわせと福祉を向上させるため、公正な県政をさら らにすすめる。まず、公害のない快適な生活環境づくりと、 物価の安定につとめる。また、子どもや老人、身体障害者 などに愛の手をさしのべ、県民の福祉の充実をはかる。さ らに教育環境の整備や教育の正常化で子どもたちの教育 を受ける権利をまもる。このほか、中小企業や農林漁業の 新興と、県民みんなの所得や福祉を向上させ、温かい心が ふれあう、活気ある郷土づくりをすすめる。
内田しげお うちだしげお 48 無新	早大大学院修了 田川 郡町村共立公平委員 北九州市人権擁護委員 カネミ油症事件原告弁 護団団長 県弁護士会 副会長 日本弁護士連 合会理事 北九州商議	高度成長時代は終わった ▽かたよった、汚れきった、企 業選挙の自民党県政を正す▽ 大企業の悪徳商法から県 民を守る消費者保護条例をつくる ▽みせかけの福祉で なく、本当の福祉を実現する ▽必要なだけの高校を急い でるくり、行き届いた教育を進める ▽郷土発展の力、農 林業、漁業、中小企業の経営発展と所得の向上につとめる ▽若い力で、平和な公害のない、住みよい郷土をつくる

	所商業活動町政協会長 北九州市門司区丸山	▽地方財源をふやし、住民自治による若々しい県政を築く。
--	-------------------------	-----------------------------



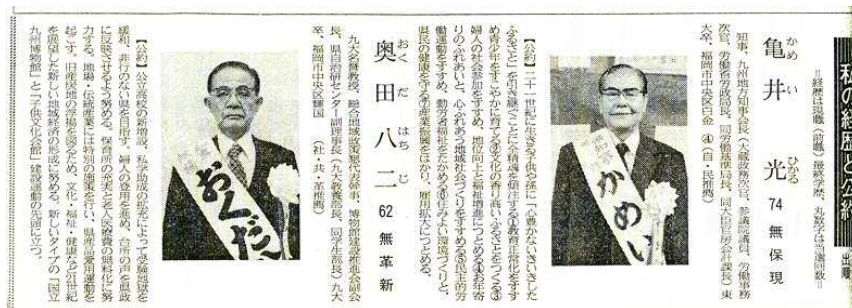
1979（昭和54年）知事選候補者の経歴と公約 19790315N



候補者	経歴	公約
亀井光 かめいひかる 70 無保現	知事 九州知事会長 日赤県支部長 大蔵政 務次官 参院議員 労 働事務次官 労働省労 政局長 中労委事務局 長 労働省労働基準局 長 同失業保険課長 東大法卒 福岡市中央 区天神 当3	生きがいのもてる郷土をつくるため、明朗で公正な県政をすすめる。まず雇用を拡大し勤労者所得を向上させる。教育の正常化をすすめこどもたちの教育を守る。県民の健康づくりと生活環境を整備。生きがいのある生活が送れるよう恵まれない人たちに愛の手をさしのべる。不況を克服し、中小企業を安定させる。農林漁業を振興し、所得の向上をはかる。民主的な労働運動とともに勤労者福祉を高める。県庁舎を建設し地方自治の充実につとめる。
つぼねま 寿義 つぼねまひさ よし 64 無革新	政策企画研究集団主催 県総務部長 県商工水 産部長 大牟田市助役 同市経済部長 農林省 農業総合研究所積雪地 方支所長 農林省技官 東大農卒 福岡市中央 区大手門	県民福祉の向上につとめ、安心できる医療体制を確立する。おちこぼれのない教育を実現し、子供を大切にし、婦人の社会的地位向上につとめる。失業の不安をなくし、安心して働ける職場づくりをめざす。一般消費税に反対し、消費者、生産者、小売業者との結びつきを深め、物価安定、消費生活の改善につとめる。農林漁業の振興、発展と、快適な生活と文化環境づくりをめざす。住民自治を大切にし、住民本位の行財政を確立する。



1983 (昭和 58 年) 知事選候補者の経歴と公約 19830409N



候補者	経歴	公約
亀井光 かめいひかる 74 無保現	知事 九州知事会長 (大蔵政務次官、参院議員、労働事務次官、労働省労政局長、同労働基準局長、同大臣官房会計課長) 東大卒 福岡市中央区白金 4 (自・民推薦)	21 世紀に生きる子供や孫に「心豊かないきいきしたふるさと」を引き継ぐことに精魂を傾注する①教育正常化をすすめる②青少年をすこやかに育てる③文化の香り高いふるさとをつくる④婦人の社会参加をすすめる、地位向上と福祉増進につとめる⑤お年寄りのふれあいと、心ふれあう地域社会づくりをすすめる⑥民主的労働運動をすすめる、勤労者福祉をたかめる⑦住みよい環境づくりと、県民の健康を守る⑧産業振興をはかり、雇用拡大につとめる。
奥田八二 おくだはちじ 62 無革新	九大名誉教授、総合地域政策懇代表幹事、博物館建設推進会副会長、県自治研センター副理事長 (九大教養部長、同学生部長) 九大卒、福岡市中央区照国 (社・共・革推薦)	公立高校の新增設、私学助成の拡充によって受験地獄を緩和、非行のない県を目指す。婦人の登用を進め、台所の声を県政に反映させるよう努める。保育所の充実と老人医療費の無料化に努力する。地場・伝統産業には特別の施策を行い、県産品愛用運動を起こす。旧産炭地の浮揚を図るため、文化・福祉・健康など 21 世紀を展望した新しい地域経済の形成に努める。新しいタイプの「国立九州博物館」と「子供文化会館」建設運動の先頭に立つ。

田中 健蔵 (自・公・民・農推)



東京都生まれ、九大
医学・九大医学部助教
歴、教授を経て09年医
学部長、59年から01年
まで九大学長。この期
間、国大協副会長、大学設
置審議会委員などを務
めた。引退9月九日を
退職。住所は福岡市中
央区白金1丁目。

県政10大ビジョン

①中央との大きなパイプで、活力経済、
県と民衆の知恵と力をひとつにして、九州
のリーディングにむかおう。福岡県を交通網
の整備で県内三十分格差の克服、10号パ
イパスなど道路網の整備、九州・東九州幹
線自動車道の建設、新北九州空港の建設等
労働力に支えられた県と民衆に強い新産
業の創出、先端産業の育成、誘致、テクノ
リサーチパークの完成(高橋・大崎・元氣
な自然の育成を、県農林水産庁の充実、
海洋資源など海洋資源の活用、県立農業大
学校の次への移転整備等により日本一の

福岡県を、医療や福祉の充実、高齢者セン
ターの建設、スポーツの振興など財政改革
で国費の活用による健全な福岡県づくり、
行政組織の見直し、県の財政調整基金の立
て直しでモラルの確立で所屬と雇用の追
放、内閣府の補助による青森の追放、地
域との協力による電力供給の力づけ女性
が活躍できる環境づくり、婦人総合センタ
ーの建設、各種審議会・関係者への女性の
積極的参画促進活動の育成と教育の正常
化(英米など)を、学術研究費の増額、九州
国立博物館の完成(特色ある施設づくり)並
世界に開かれた国際県・福岡一の実現、
福岡国際交流基金の創設、アジア美術祭
の開催

私の経歴と公約

右から届け出る

奥田 八二 (社・共・連・サ推)



兵庫県姫路市生まれ
九大法卒、25年九
大助教授、39年から教
授、学生部長、評議員
などを務め、48年に教
養部長に就任、57年12
月九日を退職、58年4
月の県知事選で初当
選。住所は福岡市中央
区輝国1丁目。

2つの決意 8つの約束

【決意】①県上層に反対し、産業立地化
を促し、九州のリーディングとして「福岡
県の世界へのブランド」が国を輝かせる契
機づくりを県民とともに進めよう。県政
建設を「一歩一歩」の進め方で、さりとに開
かれた活力ある県政を

【約束】①テクノリサーチパーク、中小
企業振興センターの設立と経済立派と新
しい産業振興の発展の人生八十時代の医
療と福祉、生きがいのある暮らし、シルバ
ー人材センター創設、保健センター充実、
21世紀をひらく人づくりと学習の場の創
設

候補者	経歴	公約
田中健蔵 たなかけんぞう 64 無新	東京都生まれ。九大医卒。九大 医学部助教授。教授を経て 50 年医学部長。56年から61年ま で九大学長。この間、国大協副 会長。大学設置審議会委員など を務めた。61年9月九大を退職。 住所は福岡市中央区白金 1 丁 目。 (自・公・民・農推)	略
奥田八二 おくだはちじ 66 無現	兵庫県姫路市生まれ。九大法 卒。25年九大助教授。39年か ら教授。学生部長、評議員な どを務め、48年に教養部長に 就任。57年12月九大を退職、 58年4月の県知事選で初当 選。住所は福岡市中央区輝国 2 丁目。 (社・共・連・サ推)	略

西 日 本 新 聞 1991年(平成3年)3月19日 火曜日 18版 (26)

私の経歴と公約 (右から届け出順)

重富吉之助 57 無所属
(自・無所属)



【経歴】福岡県立第一高等学校卒業。1961年、福岡県立第一高等学校教員。1967年、福岡県立第一高等学校教頭。1971年、福岡県立第一高等学校校長。1975年、福岡県立第一高等学校校長。1979年、福岡県立第一高等学校校長。1983年、福岡県立第一高等学校校長。1987年、福岡県立第一高等学校校長。1991年、福岡県知事選候補者。

奥田 八二 70 無所属
(共・無所属)



【経歴】山口大学経済学部卒業。1961年、山口大学教員。1965年、山口大学教頭。1969年、山口大学校長。1973年、山口大学校長。1977年、山口大学校長。1981年、山口大学校長。1985年、山口大学校長。1989年、山口大学校長。1991年、福岡県知事選候補者。

山崎広太郎 49 無所属



【経歴】福岡県立第一高等学校卒業。1961年、福岡県立第一高等学校教員。1965年、福岡県立第一高等学校教頭。1969年、福岡県立第一高等学校校長。1973年、福岡県立第一高等学校校長。1977年、福岡県立第一高等学校校長。1981年、福岡県立第一高等学校校長。1985年、福岡県立第一高等学校校長。1989年、福岡県立第一高等学校校長。1991年、福岡県知事選候補者。

（以下、各候補者の公約要約）

候補者	経歴	公約
重富吉之助	福岡県立第一高等学校卒業。1961年、福岡県立第一高等学校教員。1967年、福岡県立第一高等学校教頭。1971年、福岡県立第一高等学校校長。1975年、福岡県立第一高等学校校長。1979年、福岡県立第一高等学校校長。1983年、福岡県立第一高等学校校長。1987年、福岡県立第一高等学校校長。1991年、福岡県知事選候補者。	
奥田 八二	山口大学経済学部卒業。1961年、山口大学教員。1965年、山口大学教頭。1969年、山口大学校長。1973年、山口大学校長。1977年、山口大学校長。1981年、山口大学校長。1985年、山口大学校長。1989年、山口大学校長。1991年、福岡県知事選候補者。	
山崎広太郎	福岡県立第一高等学校卒業。1961年、福岡県立第一高等学校教員。1965年、福岡県立第一高等学校教頭。1969年、福岡県立第一高等学校校長。1973年、福岡県立第一高等学校校長。1977年、福岡県立第一高等学校校長。1981年、福岡県立第一高等学校校長。1985年、福岡県立第一高等学校校長。1989年、福岡県立第一高等学校校長。1991年、福岡県知事選候補者。	

西 日 本 新 聞 1991年(平成3年)3月19日 火曜日 18版 (26)

福岡・奥田氏が三選

統一地方選 前半戦 12知事決まる

重富・山崎氏に大差

投票率史上最低

【選挙結果】

候補者	得票数
奥田 八二	98,038
重富吉之助	53,764
山崎広太郎	36,144

【落選者】

当 井本 勇	31,992
松尾 義幸	54,105
山口 節生	36,687

【落選者】

当 平松 守彦	54,294
玉麻 吉丸	73,652

【落選者】

北海道 菅野 隆	25,443
神奈川県 神奈川 佐藤 隆	25,443

城南区、朝倉郡などで現職落選

県議選確定得票

【選挙結果】

選挙区	候補者	得票数
城南区	現職 佐藤 隆	12,345
	当 佐藤 隆	12,345
朝倉郡	現職 佐藤 隆	12,345
	当 佐藤 隆	12,345

【落選者】

当 佐藤 隆	12,345
当 佐藤 隆	12,345

1995（平成 07 年）知事選候補者の経歴と公約 19950408N



候補者	経歴	公約
麻生渡 あそうわた る 55 無新 (自・進・社・ さ・公推)	北九州市戸畑区出身。京大卒。昭和 38 年通産省入り。近畿通産局長、商務流通審議官、特許庁長官を歴任。平成 6 年 7 月退官し、平成 7 年 3 月まで中小企業総合研究機構顧問。福岡市早良区百道浜。	県民の暮らしを守り豊かにするため①緊急な水対策と防災対策②総合福祉対策③快適な生活環境④地方分権と県民主役の県政⑤雇用拡大⑥技術立県⑦地域経済活性化⑧特色ある農林水産業⑨産炭地域振興対策⑩県内一時間交通⑪高速交通体系整備⑫21 世紀への人材育成⑬世界トップレベルの研究開発⑭文化とスポーツ活動振興⑮女性の社会参画⑯国際空港実現⑰アジアの情報発信基地⑱アジアとの共生発展をめざします
重富吉之 助しげとみ きちのすけ 61 無新	筑後市出身。九大卒。昭和 35 年行政管理庁入り。臨調総務課長、総務庁官房審議官。平成 3 年 4 月の県知事選に出馬。同年 9 月の参院補選で初当選。政治団体「福岡県民党」代表。福岡市中央区荒戸。	「県民による県民の県政」の実現により、誇りのもてるふるさと福岡を実現する。重点公約は①女性副知事の実現②2003 年までに湧水ゼロ体制確立③ゴミリサイクルセンター創設④「ふるさと創造会議」設置⑤湧水ゼロ・交通事故ゼロ・いじめゼロをめざす「ゼロ運動」スタート⑥ボランティア活動センター創設⑦日本一の商工・農林水産実現のための「J-1 推進会議」設立⑧社会奉仕される方々の待遇改善
徳川高人 とくがわたか ひと 34 無新	佐賀県三田川町出身。西南学院大中退。昭和 57 年、服飾・食品販売事業を始めた。平成 6 年、政治研究所「政治分析センター2001」を設	私の大好きな福岡県が、楽しく、美しく、気持ちいいエリアになるようにさまざまな努力をしていきます。重点公約は①政治家改革による政治改革、そして県民すべてが参加意識を持つことができる県政の実現②官僚主義の行き詰まりによる硬直化行政の改革③経済、文化政策のテコ入れによる活力あ

	立、代表委員長に就任。福岡市中央区荒戸。	るエリアの育成④環境保全と水の安定供給
中村哲郎 なかむらて つろう 47 諸新	長崎県高島町出身。佐賀大中退。昭和49年、労働党結成に参加。51年の衆院選で福岡2区から立候補。党中央委員会宣伝出版局責任者。党県書記長を経て平成6年12月から党県委員長。行橋市金屋。	県民に親しまれた奥田県政を継承・発展させ大都市中心の開発政策を見直す。重点公約は①福岡・北九州市集中の道路政策を抑制し、中小都市や各生活圏市町村を結ぶネットワークづくり②自然体系を破壊する大規模ダム開発をやめ、人が水に近づくように産業・経済・人口の分散化政策を進める③大型店の出店を規制、中小商工業者支援を充実する④中山間地農業や林業への支援、地域に応じた農業支援策を充実する
平川二男 ひらかわつ ぎお 73 無新(共 推)	鹿児島県加世田市出身。旧大浦高小卒。昭和30年、福建労の前身「福岡市新建築大工組合」結成に参加。福建労委員長、県労連初代議長、全建総連副委員長を歴任。福建労、全建総連顧問。福岡市城南区七隈。	県民こそ主人公、憲法を暮らしに生かし、革新県政の業績を受け継ぎ、福祉優先の福岡県を。第一に「地震は防げないが震災は防げる」立場で、震度7に対応できる街づくり、博多湾人工島や白島石油備蓄基地建設はやめる。第二に国の悪政から県民を守り、消費税の増税反対、入院給食費の無料化、コメの輸入自由化反対、第三は大企業の犠牲から労働者・県民を守る。第四は軍事基地をなくし、地方自治の原則を確立する。

The image shows a collage of newspaper clippings from the Fukuoka Asahi Shimbun. The main headline is "東京・青島氏 大阪・横山氏 無党派が圧勝" (Tokyo's Aoyama and Osaka's Yokoyama: Independent candidates win decisively). Below this, there are several smaller headlines and articles, including "47万票差 政党相乗り破る" (470,000 vote margin, party-riding broken), "福岡知事に麻生" (Fukuoka Governor becomes Masuda), "対決から総与党" (From confrontation to grand coalition), and "政策で競う知事と議会に" (Competing with council on policy). There are also some charts and smaller text blocks visible in the collage.